

令和4年度区内史跡めぐり

成願寺から宝仙寺周辺へ

令和5年3月27日午後1時30分より、前日までの雨は止み、当日はやや北風があり寒く感じましたが、幸いに天気にも恵まれ事務局含め23名で実施しました。

まず、最初は成願寺じょうがんじです。環状6号線を渋谷方面に300m程度で到着。約600年前に中野長者と呼ばれた鈴木九郎によって創建されました。ここでは蓮池藩鍋島家の歴代藩主のお墓と旧防空壕を見学しました。

幕末に活躍した新撰組の近藤勇も、家族を成願寺に預けていたという記録があるということです。

また、数年前修復が施された成願寺のご開山さまのお像のなかから、古い小さな骨片がたくさん出てきて、これ



旧防空壕

を東京大学名誉教授鈴木尚先生に鑑定していただいたところ、中年の男性と体の弱い娘の骨ということがわかりました。鈴木九郎と夭折した小笹の遺骨にまちがいないということでした。

そして、お寺からは資料とお土産を提供していただきました。

次は、象小屋跡です。現在は、中野区立朝日が丘公園になっている場所です。

享保13年(1728年)6月7日、8代将軍吉宗の時にベトナムから雄(7才)と雌(5才)の2頭の象が献上されました。

しばらくは長崎で飼育され翌年の3月に陸路で江戸に向かい5月27日に江戸城内で上覧されました。

享保17年(1732年)、中野に象舎が建てられ中野村の源助に払い下げられた。

見世物興行等を行っていたそうです。

象は寛保2年(1742年)22才で亡くなりました。

象牙一对が下賜され宝仙寺に収められていましたが、戦災で焼失して黒焦げになったものが残っているとのこと。

次は、^{ほうせんじ}宝仙寺です。青梅街道から少し北側で仁王門があり、有名人がお葬式を挙げていることで御存じの方が多いと思います。

『武州多摩郡中野明王山聖無動院宝仙寺縁起』によると、宝仙寺は平安後期の寛治年間(1087~94)源義家によって創建されま



象小屋跡



仁王門

した。このとき義家は、奥州・後三年の役を平定して凱旋帰京の途中にあり陣中に護持していた不動明王像を安置するための一寺を建立したものでした。

江戸初期の寛永13年（1636）には三重塔が建立され、江戸庶民にも親しまれ歴代将軍の尊崇もあつく御鷹狩りの休憩所としても有名でした。宝仙寺の大伽藍は昭和20年の戦禍により焼失。現在の伽藍は昭和23年より順次復旧したものです。歴代住職のお墓や堀江家のお墓、そして中野村役場もこの地にあったと石碑が残っています。



住職のお墓



中野町役場の石碑

次は、公務員宿舎の中にある山政醤油醸造所レンガ塀です。

山政醤油醸造所は明治5年（1872）に創業。レンガ塀は石灰・つのもた（海草）・砂を練り固める漆喰とフランス積みの工法で造られています。

レンガ塀は、宝仙寺とのあいだの道路にあり、
当時は薄暗い感じでの幅員も 2 m 程度しかなく、
ある意味肝試しの道路となっていました。
公務員住宅の建て替えに伴い、幅員を広げるために
撤去する必要が生じたため、明治時代の歴史的
建造物を保存しようということでこの地に
移設しました。



レンガ塀

最後に慈眼寺^{じげんじ}です。

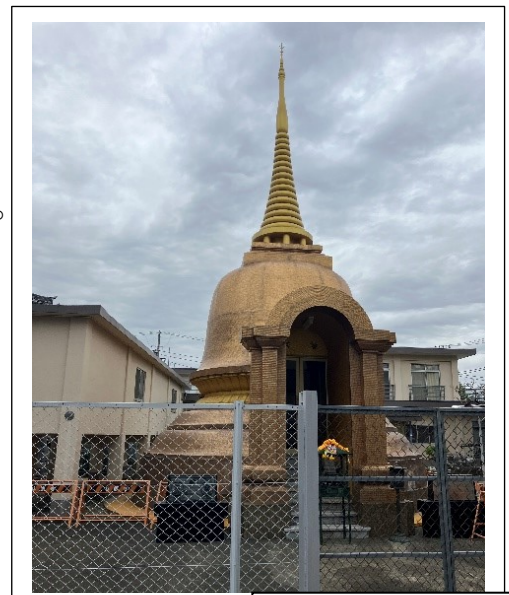
副住職の木村修廣さんにご説明をいただきました。

本堂は空襲に会い焼失その後再建されたことそして、天水桶は本堂焼失前のものが存在しています。境内には馬頭観音もお祀りしてありました。

また、いつも青梅街道から見ていた金色の建物。不思議に思っていたものはパゴダ（仏舎利）というものでした。お釈迦様のご遺骨を安置するための供養塔です。

昭和 54 年に建立され、タイの人々は

トウキョウプラパトムチェディ（東京で最初の塔）と呼んでいるそうです。



パゴダ（仏舎利）